

■ 「学習計画書」のサンプル(中1数学・方程式) ■

中学数学
数学1年

方程式
★ 学習計画書 ★

m73

10月29日 現在

氏名 **Sample**

	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	%	学習予定数	学習済	残り数
履修率	<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"><div style="width: 55%; border-bottom: 1px solid black;"></div></div>										55%	157	87	70
正答率	<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"><div style="width: 85%; border-bottom: 1px solid black;"></div></div>										85%	解いた問題を正解できた割合		
学力化率	<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"><div style="width: 63%; border-bottom: 1px solid black;"></div></div>										63%	解けなかった問題を解けるようにした割合		

黄色や赤色に反転している問題は、解けるようになるまで、繰り返し練習しましょう。

【基準】○ すべて解けた, × 解けない問題があった (「/」は学習を省略した問題です)

節	学習内容		プリント			到達度		
	■項目(学習目標)■		No.	ページ	問題	第1回	第2回	第3回

1・方程式

↓青色は習得, 緑色はリカバリ習得, 黄色は未習得

§1 方程式	(1) 等式		1	(1/1) 知識	/								
				[1] ○	10/1								
				(2) 方程式	2	(1/6) 知識	/						
						(2/6) 知識	○	10/1					
						(3/6) 知識	○						
						(4/6) 解法	/						
	(5/6) CH	○	10/1										
	(6/6) [1]	○											
	(3) 等式の性質① 等式の性質	3	(1/9) 知識	/									
			(2/9) 知識	/									
			CH	○									
			(3/9) [1]	○									
			(4/9) [2]	○									
(4) 分数をふくむ方程式 ◇非同分型 ◇通分型 ◇発展問題		11	(1/7) 解法	/									
			(2/7) CH	○	10/8								
			(3/7) [1]	○									
			(4/7) [2]	○									
			(5/7) 解法	/									
			(6/7) CH	×	10/15	○	10/22						
			(7/7) [3]	×	10/15	○	10/22						
			◇発展問題	11s	(1/5) [1]	×	10/8	×	10/15	×	10/22		
					(2/5) [2]	×	10/8	×	10/15	×	10/22		
					(3/5) [3]	×	10/8	×	10/15	×	10/22		
					(4/5) [4]	×	10/8	×	10/15	×	10/22		
					(5/5) [5]	×	10/8	×	10/15	×	10/22		
			(5) 小数をふくむ方程式	12	(1/5) 解法	/							
(2/5) CH	○	10/8											
(3/5) [1]	×	10/8			○	10/15							
(4/5) [2]	×	10/8			○	10/15							
(5/5) [3]	×	10/8			○	10/15							
(6) 方程式の解き方のまとめ① 方程式の解の意味, 移項	13	(1/4) [1]	○	10/15									
		(2/4) [2]	○										
		(3/4) [3]	○										
		(4/4) [4]	○										

■ ホームページ上で、すべての単元(小5~高3)の「学習計画書」をご覧になれます。

日々の学習の確かな積み上げに —数専ゼミの“秀才を作る”学習計画書とは何か?—

2024. 6. 8 (土)

最も科学的なテスト対策

まず、上の資料をご覧ください。

これは、中1数学・方程式の「学習計画書」の、ある生徒の学習記録（実例）です。

近々、学校で「方程式」のテストがあったとしたとき、

この生徒は、この「学習計画表」を見て、何を勉強したらいい結果が得れると思いますか。

そうですね…

- (1) 「分数をふくむ方程式」のすこし難しい計算問題は必ず復習しておかねければなりません。とりわけ「通分型」といわれるタイプの計算問題です。プリントNo.11の(5/7)～(7/7)の例題・CH問題と★演習★【3】、およびプリントNo.11sの(1/5)～(5/5)の★演習★【1】～【5】の問題はきちんと解けるようになるまで、繰り返し練習しておく必要があります。
- (2) 「小数をふくむ方程式」も少し不安定ですから、テスト間際にでも復習しておいたほうがいいでしょう。プリントNo.12の(1/5)～(5/5)の例題・CH問題と★演習★【1】～【3】の問題はきちんと解けるようになるまで、繰り返し練習しておく必要があります。
- (3) その他の計算問題はできますから、時間がないときは、復習は必要ないでしょう。時間を他の科目の勉強にまわせば、そちらのテストでもいい点がとれます。塾では、数学しか習っていないのに、理科の成績が上がったということが起こる理由です。

「解けない」をピンポイントで狙い撃ちして復習し、徹底的に「解ける」に変えていきます。このような効果的なテスト勉強が可能なのは、前頁のような学力の到達点を”可視化”した「学習計画書」があるからです。

「学習計画書」から何が読み取れるか

「学習計画書」というのは、生徒が塾で、「学力化学習法」によって解いた問題の正誤と学習日を記録したものです。

この「学習計画書」からは、次のような学習情報が読み取れます。

【0】その単元全体の学力指標

- 履修率** 学習予定の問題数に対する学習を済ませた問題数の割合を表します。履修率の変化を追っていくと、学習のスピードがわかります。分かっているときは、履修率のスピードが上がっています。逆に、解けない問題が多くあるときは、履修率のスピードが遅くなっています。
- 正答率** 解いた問題に対する正答した問題数の割合を表します。学習範囲と同じ範囲のテストを学校で受けると、この正答率とほぼ同じ点数に

なります。

学力化率 ×問題を○問題に変えた問題数の割合を表します。

”解けない”を”解ける”に変えた割合です。

”努力率”，”秀才化率”ともいえます。

この指標を上げることが学習の最終目標といえます。

【1】「学習目標」欄

「学習目標」は、習得すべき解法パターンを“体系的に”一覧表示したものです。

これを見るだけで、この単位では何を学ぶのか、また全体の学習の流れを俯瞰できます。

日々の学習の直接的な目標になります。

【2】「プリント」欄

それぞれの解法パターンを習得するために学習する教材番号を表示したものです。

1つのNo.で1つの解法パターンを学習し、No.は1つの単元で通し番号になっています。

1つの解法パターンを習得するために、知識→解法→CH→【1】～の順で学習します。

(【1】，【2】，…だけのパターンもあります。例題のいらない簡単な問題です。)

No.にsのついている教材は、発展教材です。

入試問題も含め、かなり高度な問題です。学習しない場合もあります。

No.にhのついている教材は、補充教材です。

そのNo.の解法パターンがよく理解できない人のための易しい繰り返し教材です。

学習しない場合もあります。

実際の教材を見ていただくとその問題配列のしくみがわかります。

→ Link : | [Essay_495](#) | [中1・方程式 No.11 \(分数係数の計算\)](#)，+発展問題

それぞれの学習方法については、「学力化学習法」の説明のところで紹介してあります。

→ Link : | [Essay_622](#) | [数専ゼミでは、どのようにして教えてもらえるのか](#)

【3】「到達度」欄

第1回から第3回まであります。

第1回で、自分の力だけで正解した問題は○評定になります。

第1回で、間違えた問題は×評定になります。

×評定には、まちがえた場合と解けなかった場合の2通りがあります。

解き方の方針すらたたずに、先生から最初から教えてもらった場合も×評定です。

この場合には、ただちに、先生の指導が入ります。

解き方を理解していると思われる場合には、まちがえても○評定にします。

第2回目は、第1回目で×評定となった問題の再テストです。同じ問題です。

第2回目でもまちがえた場合は、再度×評定になります。

第3回目は、第2回目で×評定となった問題の再テストです。同じ問題です。

再テストは3回までです。

3回までで正解できないということは、復習していないということあるいは、解く能力がないということを意味します。

時間の無駄になりますので、その問題の指導は中止します。

「学習日」欄 (「10/1」は10月1日というその問題を解いた日を表します。)

「学習日」欄を見ると、1日に解いた問題数がわかります。

・1日に多くの問題を解いたということは、そこに含まれる解法パターンを使いこなせる学力を習得した、ということを意味します。

・逆に、他の日と比べて、解いた問題数が少ないということは、その解法パターンがいま

いち使いこなせていない、ということの意味します。
日付をみるだけでも、弱点が浮き上がってきます。

「学習計画書」を使ってどのようにして学力をつけるか

「学習計画書」は、見るだけでは、単なる数値の羅列です。
これを学力に結びつけるには、データが示す”指示”に従って復習することが必要です。
これは、あなたの弱点を最短で克服できる最も科学的な”指示”であり、学習方法です。

何も特別な学習をするわけではありません。

「学習計画書」のデータが示してくれる「解けない」問題(×問題)を、復習(答案を紙に書きながら正解答案を完全な形で書けるようになるまで繰り返し練習すること)によって「解ける」(○問題)に変えるだけです。

この復習は一人でできるので、家庭での作業になります。

こんなことで、“有料”な塾の時間をつぶすことは”もったいない”からです。

この復習は、学校の宿題のような義務ではありません。任意課題です。やりたい人はどうぞ、ということです。

しかし、やらなければ「学習計画書」に確実に現れるということが学校の宿題とは違うところです。そして、やらなければ、確実に学力が身につかないということです。

塾で指導を受けても学力が上がらない人のほとんどが、この復習をやっていない人です。

「解けない」をそのままにしておくわけですから、当然といえば当然なのですが…。

「学力化学習法」とは学校のテスト対策である

日々の学習を、この「学力化学習法」で学習し、
日々の学力の到達点を「学習計画書」で確認しつつ、「解けない」をつぶし続けるならば、
それがそのまま学校のテスト勉強になり、自分のもっている能力を最大化し、学校の定期テストで最高の結果を得ることができるようになります。

「解けない問題」がなくなるわけですから当然のことですが…。

だから、「学力化学習法」というのは、
毎日の学習がそのままテスト対策の勉強になる学習法ともいえます。

これとは反対に…

単に問題集の問題を解くといった”闇夜に向かって鉄砲を撃つ”ような勉強をしていては、
「力はあると思うのですが、一生懸命に勉強しているのに効果が出なくて…」という愚痴を言うことしかできなくなります。

”的のない”射撃訓練をどれだけやっても、射撃の腕は上がるわけではないのです。